

令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：24405

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K02285

研究課題名（和文）「他者への欲望」という視座からみた特別支援教育実践の分析

研究課題名（英文）Analysis of special needs education practice from the perspective of "desire for the other"

研究代表者

森岡 次郎 (MORIOKA, Jiro)

大阪公立大学・大学院現代システム科学研究科 ・教授

研究者番号：10452385

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、教育関係における「うまくいかなさ」について、「他者への欲望」という哲学的な概念を用いて考察を行った。

「うまくいかなさ」といっても、それは教育の「失敗」を意味するものではない。私たちは教育の計画を立てて子どもに対する教育的働きかけを行うが、それはしばしばうまくいかない。教育という人間関係には、必然的に不確実性が含まれている。それを完全に排除して教育を「うまくいく」ようにするのはなく、「うまくいかないこと」に積極的な意義を見出すための理論的研究を行った。

こうした研究は、知識や技術の伝達が困難な特別支援教育の実践において、その教育関係を支える基礎的な原理になり得るはずである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

教育学において、あるいは、教育的な言説全般において、どうすれば教育が「うまくいくか」、大人の価値を子どもにおいて実現するのか、という方向から多くの議論がなされてきた。しかし、本研究を通じて、私たちは「うまくいかなさ」の中に積極的な意義を見出すことが出来る、ということが明らかとなった。

今後、未来予測はより一層困難となり、不確実性が教育においても重要な課題となる。すべてを思い通りにコントロールするのではなく、理解も操作も不可能な領域を肯定することが必要となるだろう。本研究成果により、とりわけ特別支援教育においては、思い通りに発達しないことに積極的な意義を見出すことが出来るようになる。

研究成果の概要（英文）：In this study, the philosophical concept of 'desire for the other' was used to consider the 'not succeeding' in educational relationships.

'Unsuccessfully' does not mean 'failure' in education. We plan education and carry out educational work with children, which often goes wrong. The human relationship of education inevitably involves uncertainty. Rather than removing it altogether to make education 'working', theoretical research has been conducted to find positive significance in the 'things that go wrong'.

Such research should be a fundamental principle to support the educational relationship in the practice of special needs education, where knowledge and skills are difficult to transfer.

研究分野：教育学

キーワード：他者への欲望 他者 能力主義 教育関係 特別支援教育 E. レヴィナス 遠山啓 多様な学び

1. 研究開始当初の背景

従来の教育学研究においては、教師の用意した教材や授業を通じて知識や技能を伝達することを重視した研究が多くなされていた。むしろ、それ自体は重要な研究であり、決して否定されるべきものではないだろう。

しかしながら、とりわけ1990年代以降、教育哲学研究においては、理解することも操作することも不可能な「他者」概念が着目され始めた。研究代表者(森岡)の研究も、教育哲学研究における「他者」概念を中心としたものであった。そうした議論においては、とくに子どもの「他者性」が強調され、西洋近代的な知の在り方や人間中心的な発想が問い直された。マジョリティに対して、周縁におかれたマイノリティの視点が強調されることにより、その政治的な意味についての強調されてきた。

「他者」概念を用いた教育哲学的な研究は、旧来の大人中心による教育研究を批判的に相対化することを可能としたが、そこで明らかとなった理論枠組みを用いて教育実践を分析する、という視点は不十分であった。「他者」に関する教育哲学研究は、大人中心の「設計的教育観」に基づいた教育が反省的に問い直された契機とはなったが、そうした議論の成果を具体的な教育実践へと接続する視点は十分とは言えない状況であった。

2. 研究の目的

上述の背景をふまえ、本研究では、「他者」概念を研究することを通じて得られた理論的な知見を、日本における具体的な教育実践へと結びつけることを目的として行われた。

まずは「他者」概念、および、「他者」を希求する私たちの心性である「他者への欲望」という概念を理論的に深化させることを目指した。そこで整理された理論枠組みを用いて、教育実践、とりわけ、教育関係において「うまくいかなさ」が顕在化しやすいと思われる特別支援教育の実践を分析することを目的とした。そしてまた、具体的な教育実践の分析を通して、さらに理論的な深化が可能であると考えた。

基礎理論や抽象概念を持って実践を分析するだけでなく、現実の実践場面のなかから抽象的な原理を見出す作業を行うことを目的とした。すなわち、「理論と実践」「抽象と具体」を往還し、架橋しながら、教育関係を理論的に描き出すことを目的とするものであった。

(1) 「他者への欲望」という哲学的概念について深く考究し、教育哲学における基礎理論研究として、教育関係や人間形成についての理解を深めること。

(2) 哲学的な議論によって整理された概念を用いて、具体的な教育実践、とりわけ特別支援学校における実践について分析を行うこと。

上記の2点が本研究の目的であった。

3. 研究の方法

1点目の目的に関連する研究の方法として、「他者への欲望」という概念について深く考究するために、教育哲学における基礎理論研究として、E. レヴィナスやG. アガンベンといった思想家の議論を取り上げ、教育関係や人間形成についての理解を深めた。こうした研究においては、抽象概念をめぐる哲学研究が中心となった。文献研究を中心に研究を行い、その成果について精力的に学会発表や論文の投稿を行うことにより、一定程度の成果を得ることが出来た。

2点目の目的に関連する研究の方法として、本来であれば、特別支援学校等と連携し、授業実践の参観や実践者との研究会の実施など、フィールドワークを中心とした研究を行う予定であった。しかしながら、本研究期間の2年目以降には新型コロナウイルスの感染が拡大したため、特別支援学校等におけるフィールドワークは実現することが出来なかった。インタビューや参与観察など、教育実践における質的データの検討は本研究の重要な方法の一つであったが、感染症の拡大という予期せぬ状況により、研究方法の変更を余儀なくされた。

そこで、日本における教育運動の歴史へと研究対象を変更し、戦後日本の教育運動家である遠山啓の障害児教育論について考察を行った。遠山啓の教育論を考察することにより、能力主義批判と「他者」概念、そして障害児教育の接続に関する理論的な研究を行った。

現代日本における特別支援教育の実践を、教育における「うまくいかなさ」を希求する「他者への欲望」という観点から分析する研究課題については今後に残されたが、1970年代以降の日本の教育言説についての理論的分析については、一定の成果が得られた。

4．研究成果

本研究機関における最も大きな研究成果は、研究代表者である森岡が2022年に単著『教育の不可能性 と向き合う 優生思想・障害者解放運動・他者への欲望』を公刊したことである。その他、2019年度より研究分担者となった福若真人とともに、共著書を含めて5冊の図書を公刊した。

上述の森岡の研究成果については、『教育学研究』（日本教育学会）『教育哲学研究』（教育哲学会）『近代教育フォーラム』（教育思想史学会）などの学会誌に書評が掲載され、教育哲学研究のみならず、特別支援（障害児）教育分野の研究者にも受容された。

また、研究期間には継続的に学会発表等を行うことを通じて、本研究の理論的成果を広く社会に還元した。

教師が子どもをコントロールすること、子どもの「主体性」を操作的に「形成」しよとすることを批判的に問い直し、能力の数値化や序列化、競争主義を批判的に検討することにより、これまで抽象的なレベルで議論されてきた「他者への欲望」という概念を、具体的な教育実践を分析するための概念として深化・発展させてきたことが、本研究の成果である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 森岡次郎・福若真人	4. 巻 46
2. 論文標題 「できる」ようになることを志向する教育観・人間観に対するオルタナティブの探究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関西教育学会年報	6. 最初と最後の頁 6-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 森岡次郎	4. 巻 99
2. 論文標題 教育の多様性と教師の多様性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育の広場ながの	6. 最初と最後の頁 13-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 福若真人	4. 巻 20
2. 論文標題 学校教育における「家族」の意味作用 レヴィナス思想における「家族」・「死者」・「意味」からの示唆	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 学ぶと教えるの現象学研究	6. 最初と最後の頁 12-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 福若真人	4. 巻 3581
2. 論文標題 いかなる「問い」をめざして進むか：レヴィナスに向かって / レヴィナスとともに歩む途（レヴィナス協会編『レヴィナス読本』）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 図書新聞	6. 最初と最後の頁 3-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福若真人	4. 巻 126
2. 論文標題 安喰勇平著 『レヴィナスと教育学 他者をめぐる教育学の語りを問い直す』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育哲学研究	6. 最初と最後の頁 55-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森岡 次郎	4. 巻 124
2. 論文標題 「他者」に ふれる主体 の生成 「奇跡の人」における「愛撫」に着目して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『教育哲学研究』	6. 最初と最後の頁 114-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小島 和男, 福若 真人, 樋口 大夢, 田中 智輝, 村松 灯	4. 巻 123
2. 論文標題 出生の可能性と暴力性 出生主義と反出生主義のあいだで	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『教育哲学研究』	6. 最初と最後の頁 94-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福若 真人	4. 巻 24
2. 論文標題 書評 吉田敦彦著 『世界が変わる学び ホリスティック / シュタイナー / オルタナティブ』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『ホリスティック教育/ケア研究』	6. 最初と最後の頁 80-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森岡次郎、福若真人	4. 巻 79
2. 論文標題 教育の「実現不可能性」にどのように向き合うか 教育関係における能力観・人間観を問い直す	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本教育学会大会研究発表要項	6. 最初と最後の頁 288-289
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11555/taikaip.79.0_288	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森岡次郎	4. 巻 894
2. 論文標題 「多様な学び」の「多様性」をめぐって (特集 もう一つ(オルタナティブ)の教育をもとめて)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『教育』2020年7月号	6. 最初と最後の頁 81-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森岡次郎	4. 巻 579
2. 論文標題 教育の先人に学ぶ 遠山啓「たのしい授業」を求めて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『教職研究』2020年11月号	6. 最初と最後の頁 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森岡次郎	4. 巻 20
2. 論文標題 書評: 矢野智司著『歓待と戦争の教育学 - 国民教育と世界市民の形成』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 関西教育学会研究紀要	6. 最初と最後の頁 67 - 71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福若真人	4. 巻 44
2. 論文標題 西谷啓治における「生死」の問題：大谷大学講義を手がかりにして	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 関西教育学会年報	6. 最初と最後の頁 26 - 30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森岡 次郎	4. 巻 120
2. 論文標題 書評『教育と他者 非対称性の倫理に向けて』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育哲学研究	6. 最初と最後の頁 166-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森岡 次郎	4. 巻 15
2. 論文標題 遠山啓と障害児教育	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大阪府立大学紀要 人間科学	6. 最初と最後の頁 53-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福若 真人 , 森岡 次郎	4. 巻 42
2. 論文標題 「多様な学び」をめぐる「自由」と子どもの「主体性」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 関西教育学会年報	6. 最初と最後の頁 106-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森岡 次郎	4. 巻 27
2. 論文標題 書評 杉田浩崇著『子どもの 内面 とは何か : 言語ゲームから見た他者理解とコミュニケーション』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 近代教育フォーラム	6. 最初と最後の頁 161-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森岡 次郎	4. 巻 14
2. 論文標題 遠山啓の教育思想 : 初期の生活単元学習批判を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人間科学 : 大阪府立大学紀要	6. 最初と最後の頁 31-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 森岡 次郎、福若 真人
2. 発表標題 「できる」ようになることを志向する教育観・人間観に対するオルタナティブの探究
3. 学会等名 関西教育学会 第73回大会自由研究発表
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森岡次郎・福若真人
2. 発表標題 教育の「実現不可能性」にどのように向き合うか 教育関係における能力観・人間観を問い直す
3. 学会等名 日本教育学会第79回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小玉重夫、小島和男、福若真人、樋口大夢、田中智輝、村松灯
2. 発表標題 出生の可能性と暴力性 出生主義と反出生主義のあいだで
3. 学会等名 教育哲学会第63回大会（ラウンドテーブル）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 福若 真人
2. 発表標題 西谷啓治における「生死」の問題 大谷大学講義を手がかりにして
3. 学会等名 関西教育学会 第71回大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 大阪公立大学現代システム科学域 教育福祉学類編集委員会編（森岡次郎共著）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 せせらぎ出版	5. 総ページ数 320
3. 書名 人生が輝くSDG s	

1. 著者名 國崎大恩・藤川信夫 編著（森岡次郎共著）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 北樹出版	5. 総ページ数 196
3. 書名 実践につながる教育原理	

1. 著者名 森岡次郎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大阪公立大学共同出版会	5. 総ページ数 170
3. 書名 教育の 不可能性 と向き合う 優生思想・障害者解放運動・他者への欲望	

1. 著者名 香川 七海, 福若 真人, 蒲生 諒太編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 七猫社	5. 総ページ数 156
3. 書名 教育原理	

1. 著者名 山下文子監修、橋本和子ほか編（福若真人分担執筆）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ふくろう出版	5. 総ページ数 180
3. 書名 言葉の持つ力	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	福若 真人 (Fukuwaka Masato) (50844445)	阪南大学・総合情報学部・准教授 (34425)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------